

外国人の人権尊重に関する実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

佐賀県

○学校名

嬉野市立大野原中学校

○学校のURL

<http://cms.saga-ed.jp/hp/onohara-j/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 3 学級、【特別支援学級】 1 学級、【合計】 4 学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】 15 人（平成28年12月1日現在）
（内訳：1年生4人、2年生8人、3年生3人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

特記事項なし

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】

かがやく大野原っ子の育成

～人間性豊かで、自ら学ぶ意欲を持つ児童生徒の育成～

【人権教育に関する目標】

互いの人権を尊重し、差別を無くし、共に生きる子どもたちの育成をめざす、
人権尊重を基盤とする学校づくり

○人権教育に係る取組一ロメモ

学校全体として、子供たちの思いをつかむ取組（日記・生活アンケート・教育相談など）を学校の教育活動の中に位置づけ、グループワークトレーニング・構成的グループエンカウンターなどの体験的参加型学習や Q-U アンケート等を活用しながら学級の人間関係づくり・集団づくりを行っている。

○人権教育にかかる取組の全体概要

【1】人権が尊重される環境づくり

(1) 職員研修

- ① 全職員参加の「人権・同和教育推進のための職員研修」の実施
- ② 地区人権・同和教育研究会「夏期講座」への全職員参加
- ③ 佐同教研究大会全体会、研究大会分科会、実践交流会に参加

(2) 子供支援体制づくり

- ① 教育相談、生徒指導、進路指導、特別支援教育等と連携し、子供の人権を保障する校内体制をつくる。
- ② 「人権・同和教育の総和」といわれる進路保障を実現するために、基礎学力の定着や職場体験学習等を通して進路選択をする力の育成を図る。

- ③ P T A活動等を活用し、保護者とともに人権尊重の学校・地域づくりに取り組む。

【2】人権が尊重される人間関係づくり

(1) 仲間（居場所）づくり

- ① 学校全体として子供たちの思いをつかむ取り組み（日記・生活アンケート・教育相談など）を学校の教育活動の中に位置づける。
- ② グループワークトレーニング・構成的グループエンカウンターなどの体験的参加型学習やQ-Uアンケート等を活かして、人間関係づくり・集団づくりの実践を推進する。

(2) 自主活動

人権課題の解決を自分たちの課題ととらえ自ら行動できる集団に高めていくために、生徒会活動、学級活動、学校行事等のあらゆる機会を通して生徒の自主性を尊重する自治的活動に取り組む。

(3) いじめや差別を乗り越えることができる集団づくり

- ① 毎月、「いじめ・悩み調査（アンケート）」を実施し、いじめを受けているか、いじめを見たり聞いたりしたことはないか等について調査をし、その結果を全職員で共有する。

【3】人権が尊重される学習づくり

(1) 学校行事や「総合的な学習の時間」を活用した人権学習

- ① 人権集会や平和集会など全校生徒で「人権」「平和」「共生」という普遍的な価値を実現する生き方について、学び、考え、発信する学習の場をつくる。
- ② 各学年の「総合的な学習の時間」において人権尊重の視点から取り組む。
- ③ 12月に人権週間や「人権学習強調期間」などを設け、校内で人権学習に重点的に取り組み、人権意識の向上を図る。

(2) 人権・部落問題学習

- ① 差別や偏見をなくしていこうとする力を育てる人権学習を、道徳、学級活動や各教科の特性を生かして取り組む。
- ② 小学6年や中学校社会科での歴史学習と関連付けながら、各学級での人権・部落問題学習に取り組む。

(3) 児童生徒の表現活動

- ① 人権作文、人権標語やポスターなどに取り組みせ、互いの人権を尊重し、いじめなどの差別や不平等をなくしていく態度と力を育てていく。

【4】人権のまちづくり

・校区内の人々との交流を深める場を設け、下記のことに取り組んでいる。

- 校区内の神社の秋祭りへの参加・出店
- 大野原ふるさとの集い
- 大野原地区老人会との交流会・もちつき会・そばのおもてなし会
- 「地区敬老会」での交流（面浮立、詩の朗読、肩もみなど）を実施

3. 実践事例の内容

「現代に残る差別（２）」～「在日外国人への差別」で、在日韓国・朝鮮人に対する差別について考える

・取組のねらい

人権に関する諸問題について、現代社会を生きる国民の一人として、自分の問題として考えていこうとする意識を育てることは大変重要なことである。現在の残る様々な差別を具体的な例を挙げながら取り上げ、自分のこととして考えることで、社会問題に関心を持ち、差別を許さない態度・行動を育てていきたい。

・取組の頻度

中学３年公民科『現代に残る差別（２）』で実施。

・取組を始めたきっかけ

以前から、歴史や地理の学習の中で、在日外国人、特に在日韓国・朝鮮人に対する差別について学ぶ授業は行ってきたが、近年、報道等でヘイトスピーチに関するニュースを目にする機会が増え、生徒たちも「なぜ、今日の日本でそういうことが起こっているか、知りたい。」という意識が高まってきたから。

・取組の内容

公民的分野「現代に残る差別（２）」の「在日外国人への差別」で在日韓国・朝鮮人に対する差別の学習の中で、歴史や地理の学習内容を想起させ、教科書の内容を押さえた後に、より今日的な問題として報道動画や新聞記事を取り扱い、ワークシートに意見を記述させ、意見交流を行う。

・実際の授業の流れ

【導入】

前時の学習『現代に残る差別（１）』をふり返し、今日の日本に存在する差別（部落差別・アイヌの人々に対する差別）を思い出す。

【展開】

1. 本時は、在日外国人への差別について学習することを伝え、グラフを読み取り在日外国人の増加と在日韓国・朝鮮人の割合の高さを読み取らせる。
2. 歴史の学習をふり返し、なぜ在日韓国・朝鮮人が多いのかを考えさせる。その際、韓国併合や強制連行の歴史、また戦後の帰還が思うように進まなかった背景などを押さえる。
3. 今日的な課題として「ヘイトスピーチ」の問題があることを押さえる。
「おはよう日本～ヘイトスピーチ」を視聴し、ヘイトスピーチとはどのようなものか伝え、感想をワークシートに記述させる。
4. 歴史の学習をふり返し、なぜ在日韓国・朝鮮人に対する差別が起こるのか、日本人が韓国や朝鮮の人たちに差別意識をもつようになった背景を考える。

【まとめ】

5. ヘイトスピーチが国際的に非難されていること、ヘイトスピーチ規制法が整備されヘイトスピーチ自体が違法であること、何より人道的に許されることではないことを押さえ、反差別への思いをワークシートに記入させ、グループで意見交流を行う。

4. 実施する際に生じた課題及びその解決策

- ・取組を実施する際に生じた課題

本校生徒の実態として、差別を差別と気付きにくい現状がある。そこで、差別とは何かについて、しっかりと考えさせる必要がある。その上で、「どんな理由があっても差別は許されない」ことを押さえながら、今日のヘイトスピーチの学習に臨むことが重要であるとする。指導に当たっては、差別的表現を安易に使用し、差別を助長することのないよう十分留意する。

- ・課題に対する解決方法

道徳やソーシャルスキルトレーニングの時間などとタイアップし、差別をより身近な問題ととらえさせ、差別を見抜き、差別許さないという心情を高めておく。授業においては、京都朝鮮学園に係る訴訟などを取り扱い、ヘイトスピーチの罪の重さを自覚させる。

5. 実践事例の実績、実施による効果

- ・取組の効果

全員の生徒が、ワークシートに「なぜそのような差別があるのか、許せない。」との意見を記述しており、反差別の意識を高めることができた。その後の人権集会でも、いじめや差別を許さない心情を自分の言葉で表現することができた。

6. 実践事例についての評価

- ・現在、実施に当たって課題と感じていること

本校は小規模校であり、小学校からクラス替えもなく同じ学級で9年間を過ごす。そういった中で、いじめや差別につながりかねない言動も見過ごされている傾向にある。差別を差別と気付かせるために、機会あるごとに身近な問題に目を向けさせ、何がいけなかったのか、どうすれば解決できるのかを自分たちの生活とリンクさせながら、振り返らせる必要がある。